

実現したい状態の イメージが異なると、 必要だと思う問いも変わる。

実現したい仕事の姿を、具体的な一件で確かめる

実現したい状態の
イメージが異なると、
必要だと思う問いも変わります。

引継ぎ・会議・育成・業務改善。
一件の仕事を見ながら、
互いのイメージと問いを
具体的にします。



「会議をよくする」から、 どんな状態を思い描くか。

描いている状態 A

意見や懸念が
出そろっている



確かめたいこと

まだ出ていない意見・気がかり

まだ話せていない

気がかりはありますか。

描いている状態 B

試す案と担当・期限が
決まっている



確かめたいこと

試す内容・担当・期限

誰が、いつまでに、

どこまで試しますか。

意見を集める段階も、決める段階も必要です。

描く姿がAのままだと、Bに必要な問いを思いつかないことがあります。

今回はどの状態を実現したいかを、一緒に確かめます。

引継ぎを終える。その先に、どんな姿を描くか。

引継ぎで、どの状態まで実現したいかによって、確かめる対象が変わります。

説明する人が見ている場面

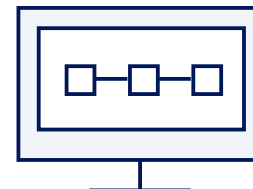
資料の内容を
一通り伝えた。



説明した内容・渡した資料を確かめる

次に仕事をする人が動く場面

通常の依頼を進め、
迷ったら相談できる。



資料の選び方・判断・相談先を確かめる

今回は、次の担当者が仕事を進められる状態を目指すとしています。

そこから必要になる問い

次に同じ依頼が来たら、最初に何を確認しますか。
どこまで自分で進め、どこから相談しますか。

「できるようにする」「効率化する」も、 仕事の姿に置き換える。

今回はどの姿を目指すか、仕事の段階や責任の範囲も含めて確かめます。

育成

描く状態の例

いつもの手順を
一人で再現できる

描く状態の例

条件の変化を確かめ、
対応や相談を選べる

確かめる問い

今回は、条件が変わったときの判断も含みますか。

業務改善

描く状態の例

自分の作業時間が
短くなる

描く状態の例

次の担当者の確認や
やり直しも減る

確かめる問い

どの工程まで含めて、よくなったと確かめますか。

言葉にしにくいときは、具体例を見比べる。

具体例の近い点・違う点を伝えることから、対話を始められます。

① 一件を選ぶ

最近の引継ぎを一件選び、
資料やメールを一緒に見る。

② 二つの姿を見せる

「説明を終えた姿」と
「次の担当者が進める姿」を
→ 短く示す。

③ 反応をもとに直す

近い点・違う点から、
今回目指す仕事の姿を
→ 一緒に具体的にします。

反応は、ここから選んでもよい

こちらに近い

両方が必要

ここが違う

まだ分からない

具体化する観点

誰が ／ どの場面で ／ 何をできる ／ どこで相談する

違いが出たら、依頼する側が描いていた姿も見直します。

目指す姿と、現在の一件を比べる。

目指す姿の例

次の担当者が、必要な資料と相談先を選び、仕事を進められる。

確かめたいこと	現在、分かっていること	相手への問い
必要な資料を選ぶか	資料は渡した。 探し方は未確認。	この依頼なら、 どの資料を使いますか。
相談の目安を 判断できるか	相談先の一覧はある。 相談する条件は未確認。	どんな条件なら、 誰に相談しますか。
実際の仕事を 進められるか	説明は終えた。 実際の一件は未実施。	まず一件、どこまで 一緒に確かめますか。

資料や相談先の例を一緒に見て、選びながら確かめます。
未確認は、「できない」という意味ではありません。

一件で試すと、次に確かめることが見えてくる。

1 決める | どの一件を試すか

誰と、どの仕事で、どこまで行うか。

2 見る | 実際に起きたこと

進めた点・止まった点・追加の負担。

3 直す | 次に確かめること

目指す姿・必要な支援・問いを更新。

進まないときは、情報・時間・権限、
相談しやすさも確かめます。



次の対話は、この一言から

この二つの例なら、
今回はどちらに近いですか。
違う点がありますか。

この考え方と、研究との接点。

本資料は、職場での実践からまとめた提案です。

関連研究を、問題の捉え方と問いを考える手がかりとして紹介します。

1 同じ問題でも、捉える手がかりが異なる

物理問題を使った4実験では、専門家と初学者で、問題を分類し捉える手がかりが異なりました。

Chi, M. T. H., Feltovich, P. J., & Glaser, R. (1981). Categorization and Representation of Physics Problems by Experts and Novices. *Cognitive Science*, 5(2), 121-152.

https://doi.org/10.1207/s15516709cog0502_2

2 分からないことへの気づきも、問いに関わる

大学生の研究法・米国7年生の代数の個別指導を分析。

知識不足や矛盾に気づき、確かめる問いが見られました。

Graesser, A. C., & Person, N. K. (1994). Question Asking During Tutoring. *American Educational Research Journal*, 31(1), 104-137. <https://doi.org/10.3102/00028312031001104>

これらは、本資料の手順全体や、イメージを共有した効果を職場で直接検証した研究ではありません。

企画・編集：甲畑智康／リクエスト株式会社

<https://requestgroup.jp>

2026年10月20日 | 人物素材はAI生成